

生鮮野菜の家庭内消費量変化

—第2回野菜需給・価格情報委員会資料—

生鮮野菜の家庭内消費量変化

中央農業総合研究センター

石橋 喜美子

はじめに

近年、野菜消費の低迷は、需要の拡大を喚起するさまざまな取り組みにもかかわらず進行している。野菜消費の変化を検討するにあたり、食料消費は消費者の年齢に大きく左右されることに注目する必要があると考える。実際、野菜消費量の減少は若齢層において顕著であると言われている。

年齢による野菜消費量変化をみるため、統計的手法を用いて年齢階層別に消費量を推計した。データとして総務省の「家計調査」個票を使用した。「家計調査」では、全国から約 8,000 世帯を選定し、6ヶ月間継続して調査を行い6ヶ月後には他の世帯と交替する。その際、調査結果に断層が生じないように、毎月6分の1ずつ順次調査世帯を更新しながら、年間で延べ約 96,000 世帯 (8,000 世帯×12ヶ月) のデータが得られる。なお、「家計調査」であることから分析対象は、生鮮野菜の家庭内消費であり、近年増加している中食や外食は含まれていない。数量でなく、金額としての中食や外食支出については分析しているので紹介する。

1. 野菜は中高年齢層で消費が多い

- ・ さつまいも、かぼちゃなどは高齢者に好まれる。(図 10-1、図 10-2)
- ・ キャベツ、レタス、ピーマンなどの洋風野菜や、もやしは中年層に好まれるが、消費量の最も多い年齢層は、次第に高齢化している。(図 10-3 ~ 図 10-6)
- ・ ほうれんそう、はくさい、さといも、だいこん、さやまめ、きゅうりなどは、中年層で消費量の減少が顕著であり、消費の高齢化がみられる。(図 10-7 ~ 図 10-12)
- ・ じゃがいも、にんじんは未成年層でも消費されるため緩やかな高齢消費型である。(図 10-13、図 10-14)

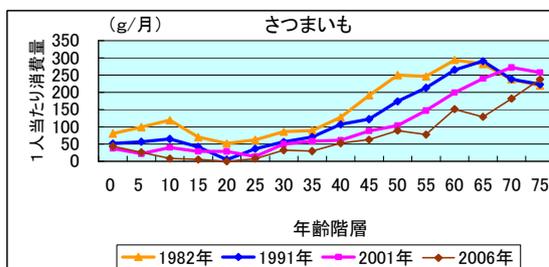


図10-1

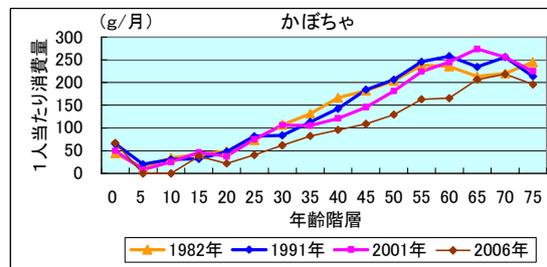


図10-2

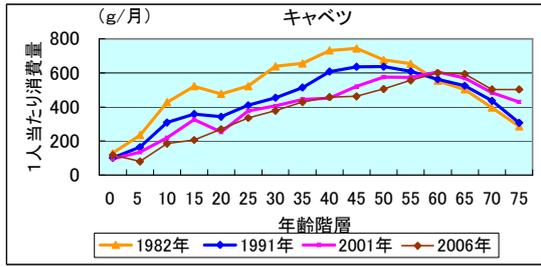


図10-3

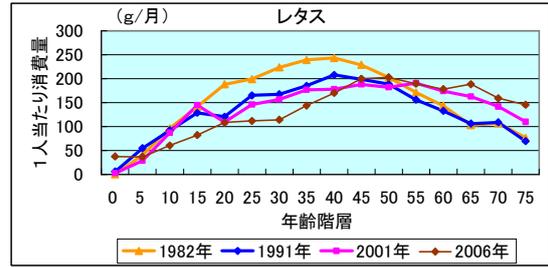


図10-4

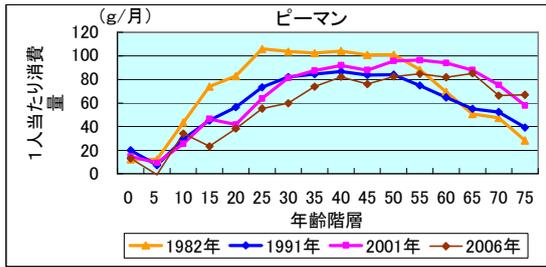


図10-5

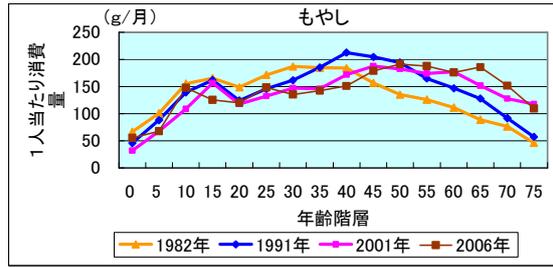


図10-6

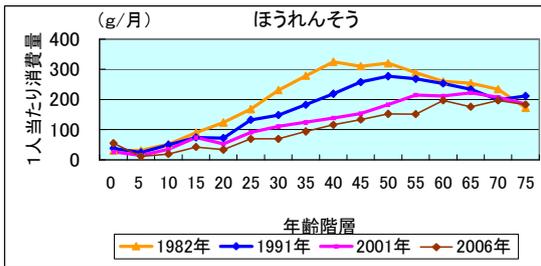


図10-7

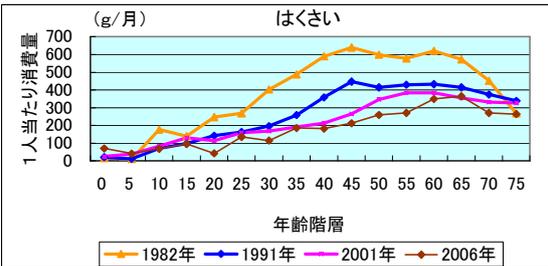


図10-8

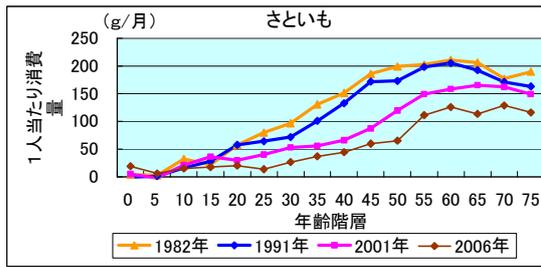


図10-9

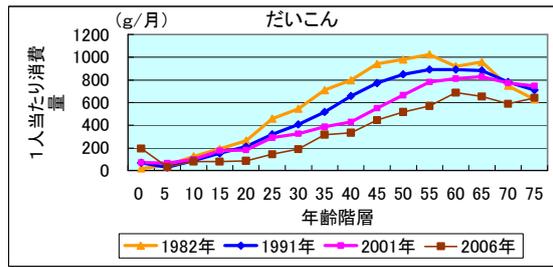


図10-10

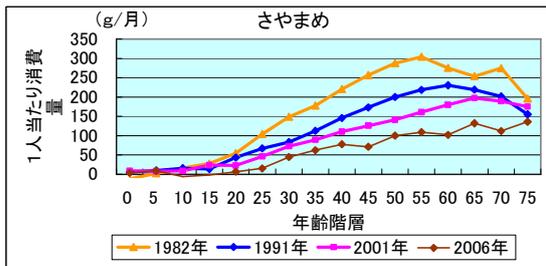


図10-11

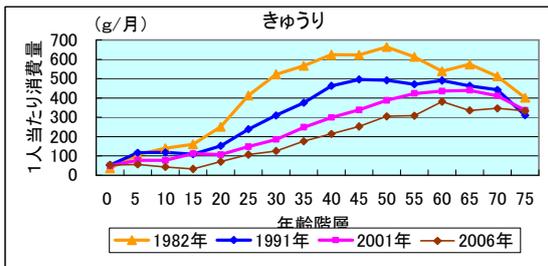


図10-12

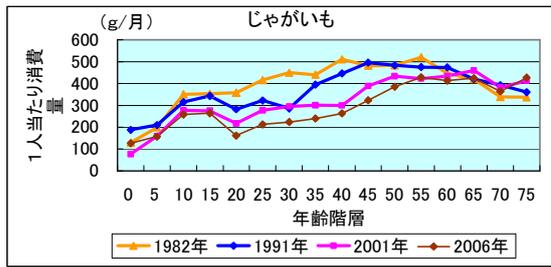


図10-13

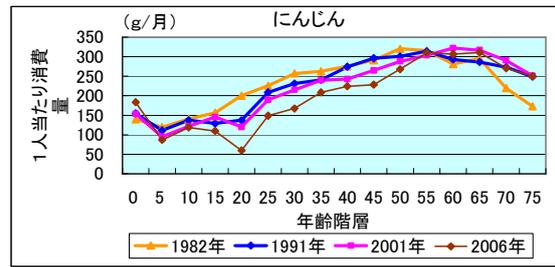


図10-14

2. 年齢にかかわらず消費量の減少する野菜

- 多くの野菜は、若者から高齢者まで消費量の減少傾向を示すが、30～50歳代の減少が顕著である。(図11-1～図11-8)

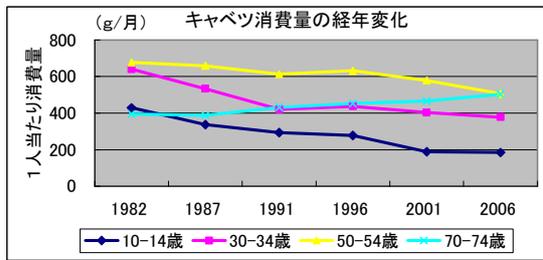


図11-1

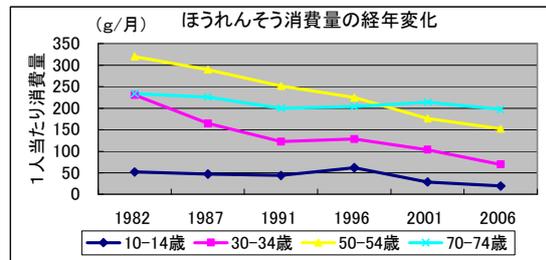


図11-2

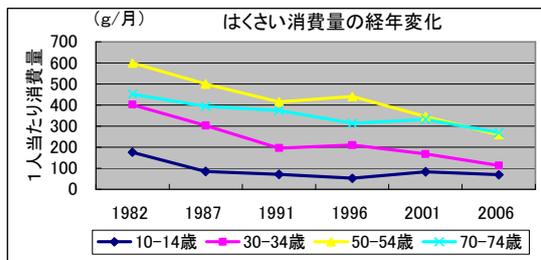


図11-3

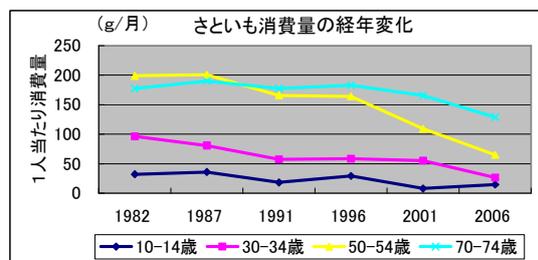


図11-4

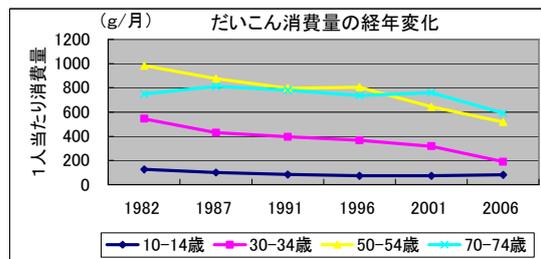


図11-5

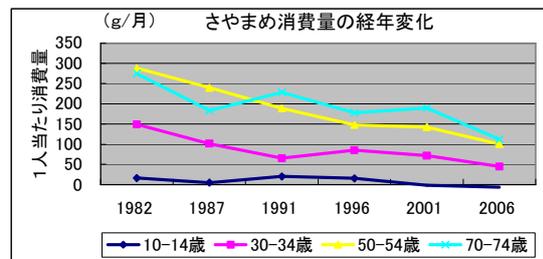


図11-6

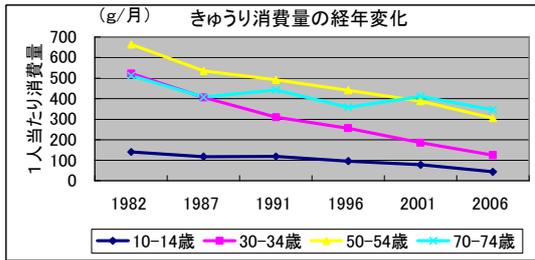


図11-7

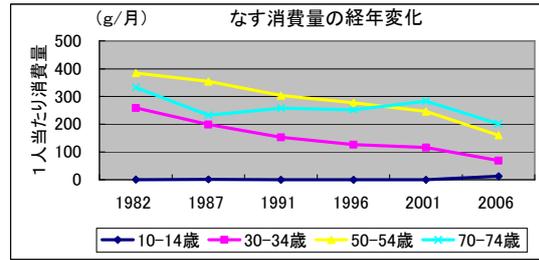


図11-8

3. 多くの野菜は、男性よりも女性に好まれる

- ・ 2人以上の世帯では、男性の方が消費量の多い野菜は、キャベツ、ねぎ、はくさいなどであり品目数は多くない。
- ・ 多くの野菜の購入金額は、単身女性が最も多く、単身男性は最も少ない。(図12-7 ~ 図12-14) もともと女性は野菜を好むが、単身女性は1人住まいということで気兼ねなく好きなものを食べられるので、野菜の購入金額が多いのではないだろうか。

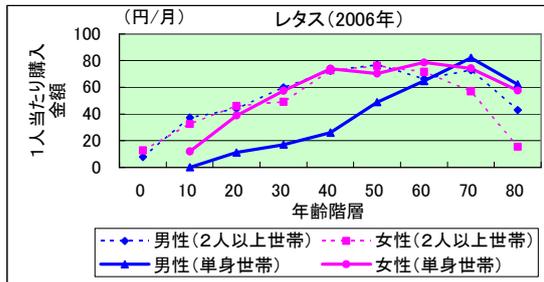


図12-7

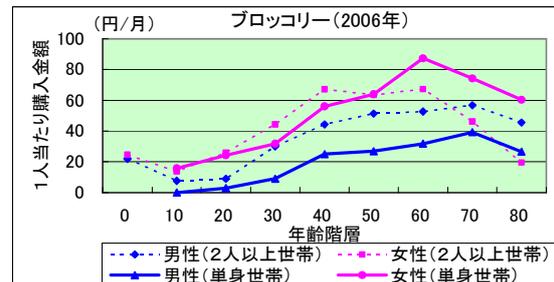


図12-8

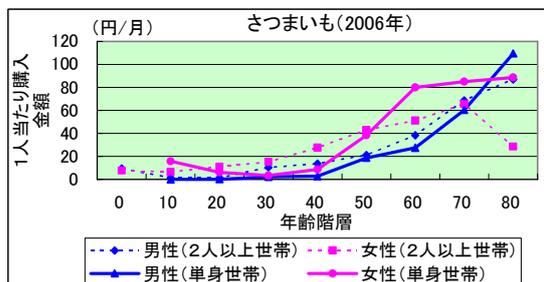


図12-9

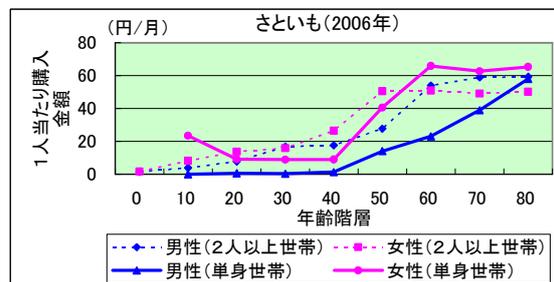


図12-10

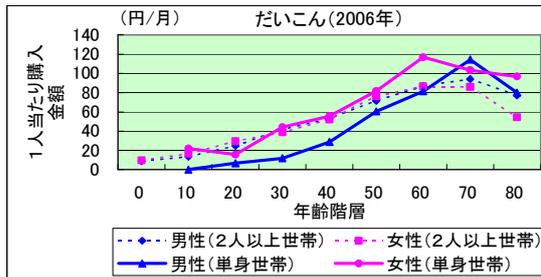


図12-11

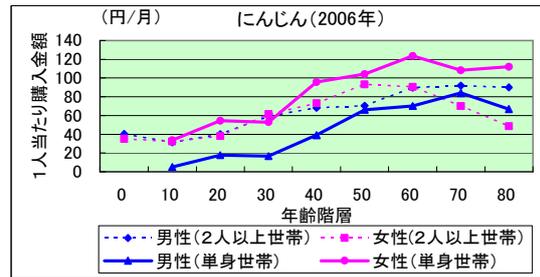


図12-12

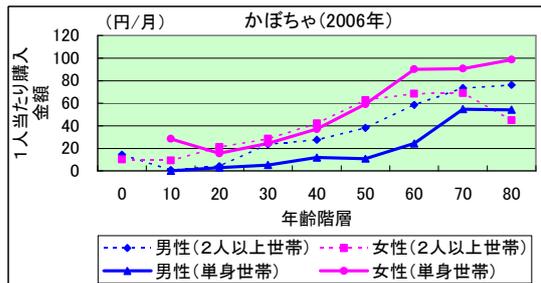


図12-13

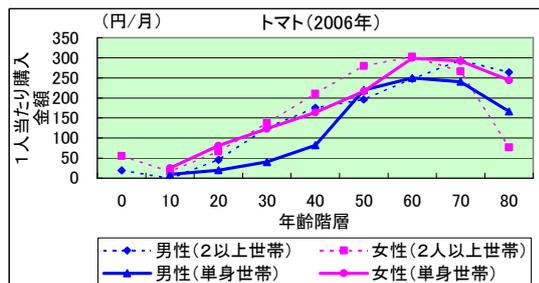


図12-14

4. 健康志向で消費が伸びる

- 近年、ブロッコリーの消費量が増加しているのは健康志向のためと考えられる。ピーマンも高齢層では消費が伸びている。(図15-4～図15-7)

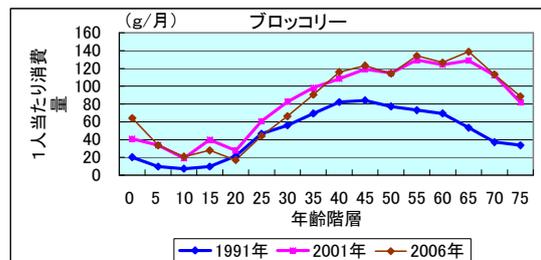


図15-4

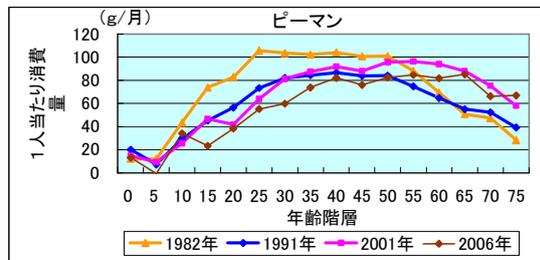


図15-5

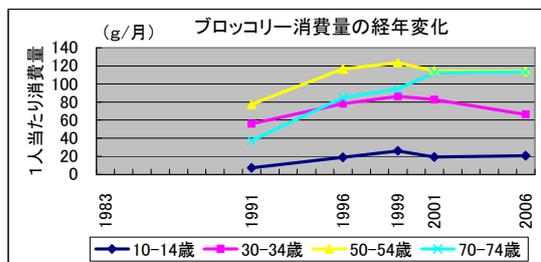


図15-6

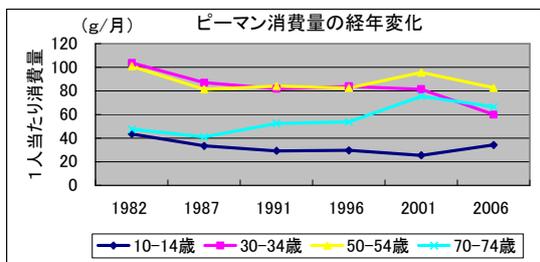
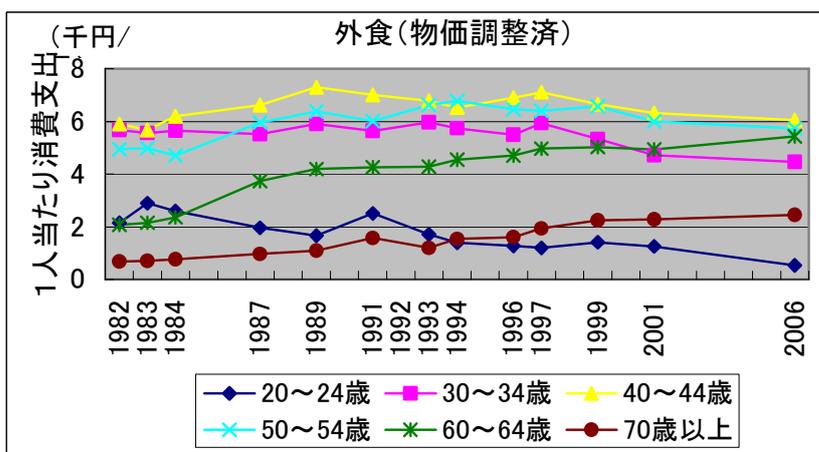
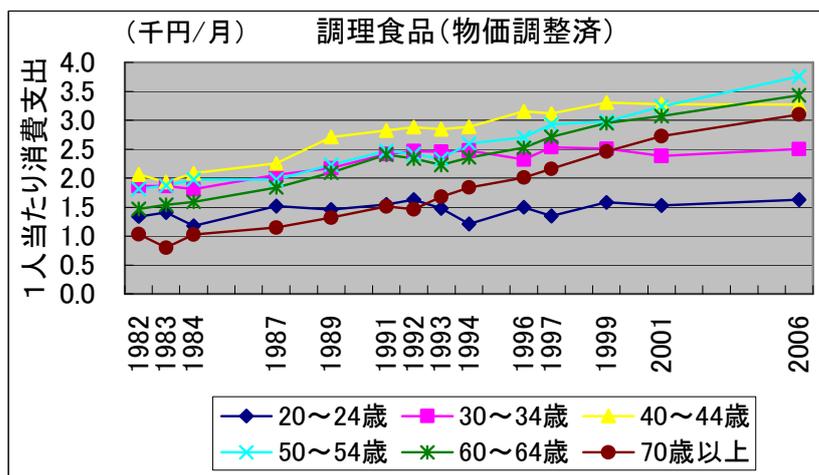
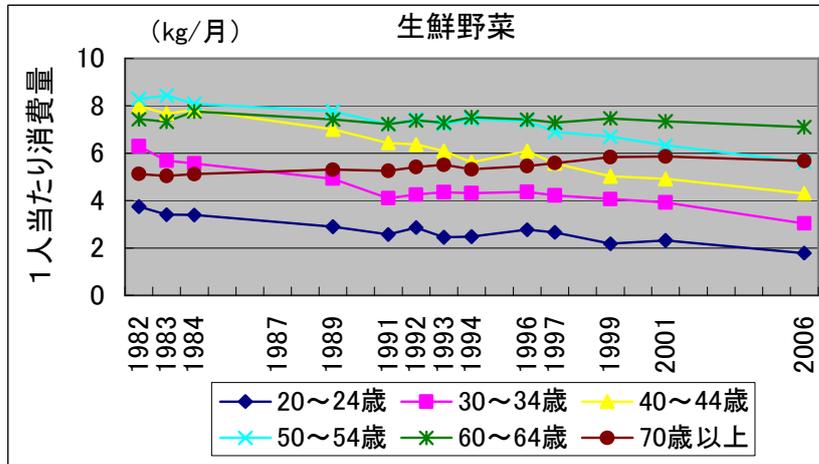


図15-7

5. 中食需要は年齢にかかわらず増加している

- ・ 生鮮野菜消費量は減少傾向を示す一方で、調理食品の支出は増加している。

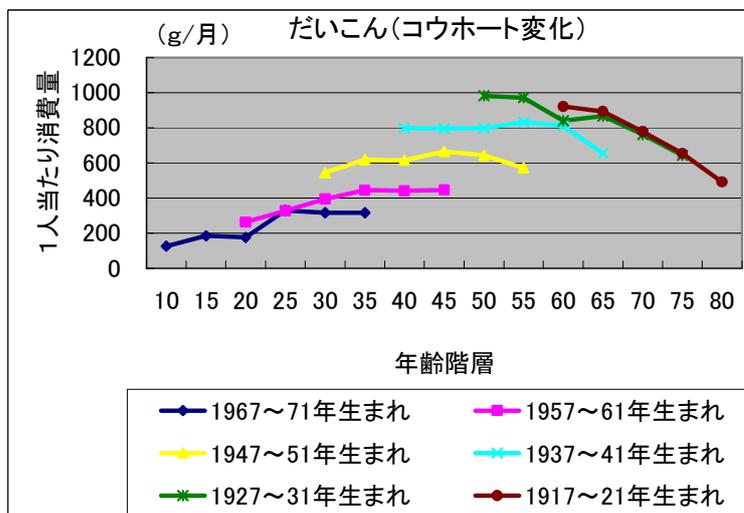


なお、20歳代の外食支出は、「家計調査」の記帳者（主婦が多いと思われる）に把握されていない可能性がある。

6. コウホート変化からみた野菜消費傾向

コウホートというのは、出生年を同じくする人達の集まりのような意味を持っている。このような集団が年齢を重ねるとともに、例えば食料消費がどのように変化するのかを分析することをコウホート分析という。なお「家計調査」では、対象世帯を更新しながら調査しているため、同じ世帯を追跡調査しておらず、厳密な意味でのコウホート変化をみているわけではない。また、ここでは調査年による差異すなわち時代による変化を内包したものである。

- ・ だいこんは、出生年が遅いほど、つまり新しいコウホートほど消費量は少なく、コウホートによる差は明白である。新しいコウホートは加齢とともに消費量が増加する傾向を示すものの、古いコウホートの消費量までは増加していない。



- ・ レタスは、45歳前後にはコウホートにかかわらず、同程度の消費量となっている。近年、高齢層でレタス消費量の増加傾向がみられるようになり、その傾向は新しいコウホートほど顕著である。

